

万葉集・梅花の歌三十二首并せて序

しよしゆん れいげつ

初春の令月にして、

きよ かぜやわ

気淑く風和らぎ、

うめ きようぜん こ ひら

梅は鏡前の粉を披き、

らん はいご こう かおら

蘭は珮後の香を薰す。



【意味】

時は初春のめでたい月であり、天気も良く澄みわたり、風はやわらかにそよいでいる。梅はおしろいのように白い花を開き、蘭は香のように薫っている。

【解説】

「平成」に代わる新元号が「令和^{れいわ}」と発表されました。出典は日本最古の歌集「万葉集」です。天皇や貴族だけではなく、防人や農民まで、幅広い階層の人々が詠んだ歌が収められ、我が国の豊かな国民文化と長い伝統を象徴します。

「令和」には「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という願いが込められています。